

1. 農林海洋科学専攻の育成する人材像

大学の使命

- 平成28年度学部改組
農林海洋科学部で幅広い教養及び専門能力を統合的に身につけた学生たちにさらに深い専門知識を獲得させ、高度産業技術者、研究者並びに教育者を育成する場が必要。
- 高知大学 農学分野のミッション (H26)

国や高知県・地域社会からの要請

- 「攻めの農林水産業」(H26.8) ・「食料・農業・農村基本計画」(H27.3)
- 「農林水産業・地域の活力創造プラン」(H28.11)
- 「第3期海洋基本計画」(H30.5) ・「総合イノベーション戦略2019」(R元.6)
- 「第3期高知県産業振興計画」(H30.6)
- 高知県知事からの要望書

学士課程において修得した専門的知識をさらに深めることに重点を置きつつ、農学・海洋科学の諸分野との連携も視野に、新たな発想で専門領域の課題に取り組み、産業の創出を含む様々な地域のニーズに応えていくことのできる人材の育成を担う専攻へ

農林海洋科学専攻で養成する人材像

農学又は海洋科学の専門知識を基盤として、陸・海域からの資源の安定的確保、資源の開発・獲得及び高度有効利用に関わる技術の開発、生産環境及び地域・地球環境の保全・修復により、人間社会・地域社会の持続的発展に貢献できる高度専門職業人を養成する。

入学者選抜 (入学定員：55人)

- 自己推薦特別選抜
- 一般選抜
- 社会人特別選抜
- 私費外国人留学生特別選抜

教育課程の特色

- 陸域から海域における環境・資源を対象とした領域横断的な「専攻共通科目」の配置
「海洋・陸域の環境と資源の科学」「実践里海再生学特論」
- 地域の課題解決・地方創生を目的に、施設園芸等の先端的内容を扱う科目の配置
「Internet of Plantsセミナー」「太陽光利用型植物工場」
- 海洋科学に関し、水産学・海底資源学・海洋生命科学の分野を総合的に学ぶ科目配置
「持続可能な水産生物資源の生産と活用」「海底資源学序論」「海洋生命科学序論」

教員組織と研究指導の特色

- 農学・海洋科学に係る専門領域に対応した69人の専任教員の配置
- 主指導教員に加え、副指導教員2名(異分野の教員を含む。)による複数体制により、多角的視点を備えた研究指導を展開
- 海洋コア総合研究センターと連携した教育・研究

2. コースごとの育成する人材像

農林資源環境科学コース

農学関連分野に関わる地域社会及び国際社会の健全な振興に貢献できる人材

暖地農学、森林科学、自然環境学、生産環境管理学等に関する最先端の専門的知識と実践的技術を身に付けさせる。そして、農林資源の安定的確保、開発・獲得、高度有効利用、生産環境管理、自然環境の保全・修復等について、海洋環境・資源に関する知見の応用も視野に含め、広い視点で事象を的確に捉え、科学的かつ自律的に思考し、第1次産業を基盤とした地域の産業振興にも貢献できる高度専門職業人を育成する。

農芸化学コース

化学的視点から生物生産を探索し、研究結果を地域社会への貢献に結び付けられる人材

生物環境化学、動植物健康化学、微生物化学の基礎から先端的領域にわたる専門的知識を身に付けて、動物・植物・微生物の生命現象、海洋生物を含む様々な生物が生産する物質、安全な食料生産と健康増進、地域・地球環境の保全と修復、生物生態系等にかかる事象を多面的にとらえながらさらに深く真理を探究する能力を涵養し、社会貢献の新たな道筋を創造する力、構想力を育む。そして、化学的視点から生物生産を幅広く探究でき、その成果を地域社会への貢献に結び付けられる高度専門職業人を育成する。

海洋資源科学コース

海洋資源の知識・開発・保全に長けた実践力のある高度海洋専門人材

従来水産学に加えて海水微生物資源や海底資源等を含む地球規模での海洋資源管理に関わる広範で深い知識や解析手法を身に付けさせるとともに、海洋生物生産学、海底資源環境学、海洋生命科学に関する最先端の専門的知識と技術を修得させる。そして、海洋資源の有効活用や陸域環境・資源に関する知見の海洋科学への応用等を通じた持続的社会的創造を志し、地域のニーズを含む様々な課題を俯瞰的に分析し、実際に行動し解決できる高度専門職業人を育成する。

修士 (農学)

修士 (海洋科学)

◆想定される進路

試験研究機関、農業関係団体、農業法人、教員(理科、農)、農林業生産者、食品製造流通・種苗・農薬・農林業機械・農林業資材・農業土木・環境関連・建設関連の企業、青年海外協力隊、公務員(国家公務員・地方公務員)、博士課程進学 など

◆想定される進路

試験研究機関、農業関係団体、農業法人、教員(理科)、企業(医薬品・化学・バイオ・食品・素材・環境・種苗・農薬・肥料メーカー等)、公務員(国家公務員・地方公務員)、博士課程進学 など

◆想定される進路

試験研究機関、教員(理科、水産)、水族館職員、企業(製造業、サービス業、環境アセスメント業、養殖業、化学系・医薬系企業)、青年海外協力隊、資源系商社、資源系コンサルタント、地質・建設系コンサルタント、海でのレジャー・観光業、エコツーリズム、公務員(国家公務員、地方公務員)、博士課程進学 など